

令和5年度 学校評価(自己評価)集計結果 〈寄宿舍〉

青森県立青森聾学校

回収率 100% (全9名)

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を○で囲んでください。

4 そのとおりである 3 おおむねそのとおりである 2 やや違う 1 違う

* 各評価項目の平均は、小数第2位で四捨五入したものです。

NO	評価項目	評価	4	3	2	1	R5 平均
1	自分は、幼児児童生徒のアセスメントを大事にし、自分の考えを伝えたり相手の話を理解したりできるよう言語力の育成に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	3.7
		人数	6	3	0	0	
2	自分は、幼児児童生徒や保護者と十分話し合い、ニーズを受け止めて指導に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	3.6
		人数	5	4	0	0	
3	自分は、子どもの得意なところを見つけ、自信をもって取り組めることを増やすよう努めている。	評価	4	3	2	1	3.7
		人数	6	3	0	0	
4	自分は、子どもたちが生活に関する知識・技能を習得できるよう指導に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	3.8
		人数	7	2	0	0	
5	自分は、子どもたちの生活指導について他の職員と話し合ったり、研修に参加したりするなどして指導力の向上に努めている。	評価	4	3	2	1	3.4
		人数	5	3	1	0	
6	自分は、子どもたちが互いに協力したり、一人一人が活躍したりできる活動場面を設定している。	評価	4	3	2	1	3.4
		人数	5	3	1	0	
7	自分は、子どもたちに課題解決をさせる体験を通して協力することや努力することの大切さと喜びを実感できるようにしている。	評価	4	3	2	1	3.4
		人数	4	5	0	0	
8	自分は、子どもたちが自分の考えや思いを伝えられる手段を身に付けられるよう努めている。	評価	4	3	2	1	3.7
		人数	7	1	1	0	
9	自分は、友達の良さを認め、自己のよいところを見つけられる活動を工夫している。	評価	4	3	2	1	3.6
		人数	5	4	0	0	
10	寄宿舍は、子どもたち一人一人に合わせた生活習慣を身に付けさせるため、入舎から退舎まで継続して指導している。	評価	4	3	2	1	3.7
		人数	6	3	0	0	
11	寄宿舍は、子どもたちが自分の健康と安全を確保できる知識と実践できる力の育成に努めている。	評価	4	3	2	1	3.6
		人数	5	4	0	0	
12	寄宿舍は、子どもたちが安全に生活できる施設設備の維持充実と地域と連携した安全・防犯対策努めている。	評価	4	3	2	1	3.4
		人数	5	3	1	0	
13	寄宿舍は、情報保障やICTを活用できるよう生活環境を充実させている。	評価	4	3	2	1	3.3
		人数	4	4	1	0	
14	学校は、安全な給食・舎食の提供に努めている。	評価	4	3	2	1	4.0
		人数	9	0	0	0	
15	寄宿舍は、緊急時の連絡・避難に対応できる体制づくりを行っている。	評価	4	3	2	1	3.8
		人数	7	2	0	0	

1 6	寄宿舎は、いじめの未然防止と積極的ないじめの認知を行い、組織的に対応している。	評価	4	3	2	1	3. 7
		人数	6	3	0	0	
1 7	学校は、学校運営協議会を設置し、保護者・地域住民の学校運営への参画の推進を通して学校づくりを進めている。	評価	4	3	2	1	3. 4
		人数	4	5	0	0	
1 8	寄宿舎は、保護者に教育活動のねらい・内容・結果について説明し、連携して指導している。	評価	4	3	2	1	3. 3
		人数	3	6	0	0	
1 9	学校は、職員の研修の機会を確保し、校内研修や校内研究に取り組んでいる。（手話学習会、ミニ学習会含む）	評価	4	3	2	1	3. 9
		人数	8	1	0	0	
2 0	寄宿舎は、仕事と生活の両立ができるよう職員間で協力し合い、互いに助け合っている。	評価	4	3	2	1	3. 4
		人数	4	5	0	0	
2 1	学校は、多忙化解消に向け、業務改善できるよう見直しをしている。	評価	4	3	2	1	3. 3
		人数	3	6	0	0	
2 2	寄宿舎は、意見の相違があっても協力し合っている。	評価	4	3	2	1	3. 3
		人数	4	4	1	0	
						全平均	3. 6

意見要望

・特記事項なし

集計結果の概要

寄宿舎職員の自己評価では、全評価項目において平均が3（おおむねそのとおり）以上であり、全体の平均値が3.6と高い傾向にありました。 高かった項目は「安全な給食・舎食の提供」「職員の研修機会の確保」に関する項目が3.9以上でした。また、「生活に関する知識・技能を習得できるような指導」が3.8とほぼ全員が生活に関する子どもたちの知識・技能を育成できるよう意識して指導していることが分かります。 やや低かった項目は「情報保障・ICT」「保護者への教育活動のねらいの説明と連携」「多忙化解消」「職員間で意見の食い違いがあっても協力し合う」が3.3でした。「情報保障・ICT」に関しては、寄宿舎でICTを活用する機会があまり多くないことが挙げられます。 「多忙化解消」「職員間で意見の食い違いがあっても協力し合う」については、学校の自己評価でも低かった項目です。互いの立場を認め、協力し合って働きやすい職場環境づくりを目指す必要があると考えられます。「保護者への教育活動のねらいの説明と連携」について、帰舎帰省時の機会を活用し、引き続き保護者に丁寧に説明し、連携・協力していくことが大切です。
--